

「問題解決力」は何に取り組みにも役立つ汎用的スキル

■自分の専門分野以外の人の取り組みに

大林久佐邦さんは製薬会社に勤務し、新薬の研究開発に携わっている。新薬の開発期間は長く、通常15年程度はかかるそうだ。その間には数えきれない失敗や問題に行き当たる。研究開発部門の中だけでなく、営業、マーケティング、製造など他部門との調整、また経営陣とさえ渡り合わなくてはいけない場面も少なくない。

大林さんがだんだん責任ある立場になってきた2009年、偶然メルマガで見たのが「問題解決」を掲げるビジネス・ブレイクスルーの「経営管理指導士」で、興味をいだき体験ワークショップに参加した。チームで問題解決をシミュレーションするワークショップは、研究開発においてだけでなく、専門以外の分野の人間との取り組みにおいても大きく力を発揮すると感じ、本格的にそのスキルを身につけたいと受講を決めた。

■時間はかかるがそれだけの価値があった

経営管理指導士は問題解決の基礎スキルを修了したあと、3級、2級、1級と段階ごとにしつかり学んでからステップアップする。3級では主に問題発見の力と解決の基本を学ぶ。2級では導いた解決策を周りを巻き込んで実行する力を養う。1級では企業経営に不可欠な構想力や人材育成力も身につける。1級まで到達するには最速でも3年と、他の資格に比べて内容が濃い分時間がかかる。

大林さんはスマートフォンを活用して、主に通勤時間を学習に充てた。内容の難度によって10秒巻き戻しや2倍速の機能を使い、時間の有効活用も図った。



第一三共株式会社 研究開発本部
安全性研究所 課長代理
大林 久佐邦さん

ビジネス・ブレイクスルー大学内にあるOBも利用できるライブラリーにて撮影。取材終了後も「せっかくだから少し勉強して行きます」と勉強熱心だった。経営管理指導士1級取得直後の2013年4月からMBAの勉強を始め、15年3月に修了。そしてMBA取得後の15年4月からは社会人博士課程に進学し、現在論文執筆中だ。獣医師でもある大林さんが就職先として製薬会社を選んだ理由は、「動物アレルギーがあることがわかったから」という意外な答だった。

だが、それでも1級を修了したのは2013年3月だった。時間はかかったが、それだけの価値はあったと感じている。

■経営トップのメッセージの背景を理解

「所属研究所の会議や各部門横断的な社内勉強会などを企画運営する立場にもあるのですが、その中で自部門の問題点はもちろん、他部門についても相手の話を鵜呑みにするのではなく、自分で本質を考えて問題を整理し、自分なりの解決策を提案できるようにになりました」

ビジネス・ブレイクスルーは経営という視点でのカリキュラムが多いのも特徴だ。

「本部長や社長の発するメッセージはやや抽象的な表現が多くなりますが、メッセージの背景を想像できるようにするため、単に上が言ってるからという態度ではなく、『こうした方がいいのでは』と自分なりに考えられるようになりました。ですから直接社長と会っても、臆することなく経営に関する話ができるようになりました」

■企業の目標は数字ではなく顧客を喜ばせること

「もし、意欲はあるけど何からやればいいのかわからないという人がいたら、そういう人にこそ『問題解決』を勧めます。その後何に取り組みにする汎用性の高いスキルになるのは間違いありません。講師陣もユニークで、元マッキンゼー人材育成責任者の斎藤頭一先生の講義は、特に面白くわかりやすいです。大前研一学長によるビジネスに直結するニュース解説も視聴でき、マスメディア経由では得られないインパクトを受けました。」

また、基本はeラーニングですが、共に学ぶ仲間たちに直接会うイベントもあります。ほとんどが異業種の社会人で、刺激し合える良い人脈として今もつながっています。そうしたことが、4年間飽きずに学び続けられた理由です」

講座では「企業の目標は数字ではなく顧客を喜ばせること」という基本を、事例を交え何度も教えられた。製薬会社なら、治療薬のなかった病気を治せるようにし、患者さんの苦しみや不安を和らげることだ。それを忘れず取り組んで行きたいという。

●資格の認定元

株式会社ビジネス・ブレイクスルー

〒102-0084 東京都千代田区二番町3 麹町スクエア2F TEL 03-6271-0757 <http://www.lt-empower.com>